

うちなあ点描
●第二十二回

「首里城公園友の会」の活動

文と写真・平良啓 Hironu Taira

●首里城復元と友の会の発足

平成四年十一月三日、首里城跡地が復元整備されて、「首里城公園」として一部供用開始された。その後も復元整備事業が進み、琉球王朝時代の景観が蘇ってきている。平成四年五月三十日に「首里城公園友の会」

の設立総会が開催された。首里城公園友の会は(財)海洋博覧会記念公園管理財団の協力を得て、首里城を支援する事業を行い、首里城を愛護し、会員同士の親睦を図り、首里城と沖縄の歴史・文化を学ぼうという団体である。沖縄だけではなく本土にも会員がおり、

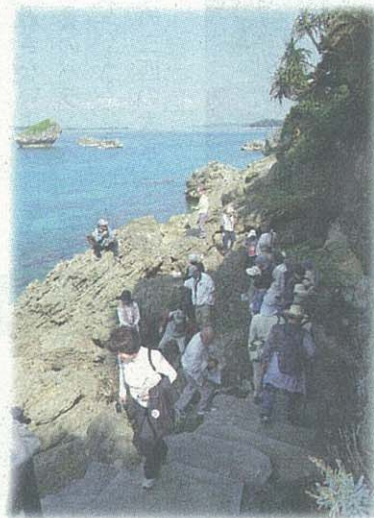
現在会員は約千二百名で、活発に活動している。

●友の会の主な活動

六月の総会でその年の活動内容が承認されて、事業がスタートする。年に六回ほど行う史跡巡見では、沖縄県内の城跡、歴史的建造物、由緒ある場所などを見学している。海外にも足を延ばし、これまでに中国や韓国、ベトナム、カンボジア、タイ、マレーシアなどの国々・地域を訪ねている。かつての「江戸上り」のルートを辿る本土への旅、久高島や渡名喜島、津堅島、奄美大島などを訪ねる旅も行っている。また首里城見学会では、親子で参加して漆器のコースター、琉球玩具作りなどの体験学習、展示品解説会など多彩な催しを展開している。首里城周辺や那覇市内の文化財などを巡るコースもある。

イヌマキ育樹祭

「イヌマキ育樹祭」を夏と冬に開催している。このイベントは平成五年に国頭村辺野喜に植樹した約六千本のイヌマキの除草や施肥を行うもので、会員とその家族が大勢参加して心地良い汗を流す。数百年後の首里城修復に地元で育ったイヌマキを使ってほしいとの願いが込められている。



史跡巡見

文化講演会を開催し、沖縄の歴史や文化など、幅広いテーマで講師の方に話を聞いていただいている。また「芸能等鑑賞会」と称して、国立劇場おきなわで組踊などの伝統芸能を鑑賞している。首里城研究会は二カ月に一回の割合で開かれている。この会は、歴史、文学、民俗、考古、美術工芸、建築など多岐にわたる専門の研究者が集まって研究成果を発表するもので、平成六年の発足以来やがて百回目の開催を迎える。よくぞここまで続けたものだ、と思う。発表の成果は機関誌の「首里城研究」にまとめられている。

発行される会報誌にまとめられ、会員の手元に届けられている。私は友の会の発足当初から事務局の一人として関わっており、今年でもう十八年目になる。その間楽しい思い出ばかりである。というのも、私自身、史跡巡見でさまざまな場所を訪ねることができたり、文化講演会で貴重な話が聞けたり、研究会で最新の研究に触れることができたりしているからである。特に史跡巡見では、参加した会員の安全やスケジュールなどに配慮しつつ、多くの会員とおしゃべりするのにもまた楽しい。県内の博物館や美術館などにも友の会の組織があり、文化活動を行っているようである。多くの人たちと交流を深めながら沖縄の歴史・文化を学び、心を豊かにしたいものである。